

明日の
とりでを
考える



ひ
こ
ば
え

「葉」とは伐(き)った草木の根株から出た芽のことです。草木の根元から力強く萌え出る姿に、市民の皆さんと共に築いていく「明日のとりで」への思いを託しました。

目次

選ばれるまちを目指して	P2
シティプロモーションの取り組み	P3
私が取手に住む理由	P4・5
移住・定住を応援！	P6・7
エスディージーズ SDGsの取り組みを進めています	P8

発行 / 取手市 編集 / 魅力とりで発信課
〒302-8585 茨城県取手市寺田5139
TEL 0297-74-2141 内線 1193 FAX 73-5995
ホームページ <https://www.city.toride.ibaraki.jp/>
E-mail miryoku@city.toride.ibaraki.jp



私が取手に住む理由

「通勤便利」、「自然が豊か」、「子育てに優しい」、魅力的なまち取手市。市に移住・定住された皆さんの顔には、笑顔があふれています。インタビューページでは、補助制度を利用して自分らしい暮らしをかなえた皆さんに、「取手に住む理由」をお聞きしました。





選ばれるまちを目指して

市は、次の時代の担い手となる若年層に選ばれるまちづくりを進めています。

住宅取得などを支援する補助制度の設立や、市の魅力を発信するシティプロモーションを進めた結果、日本人の国内での移動は4年連続で転入超過（転入が転出を上回る状況）となりました。今号の薬では、移住・定住を促進する市の取り組みなどを紹介します。

移住・定住施策の位置づけ 政策推進課 ☎内線 1211

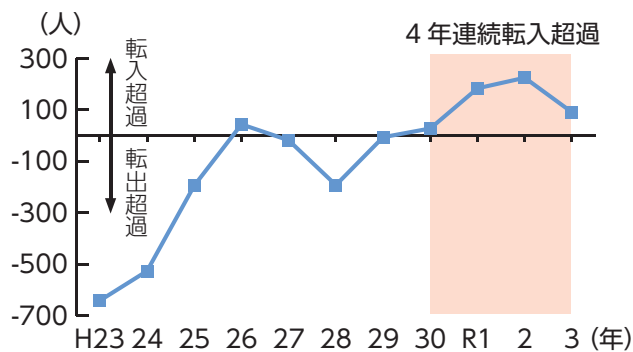
市は、最上位計画である「第六次取手市総合計画」のもと、令和2年度から4年間の基本計画として「とりで未来創造プラン2020」を策定しました。定住の促進を戦略の一つに位置付け、重点施策として「若年層を中心とした定住支援」と「イメージアップ施策の推進」に取り組んでいます。

◆4年連続で転入超過

平成23年、取手市における日本人移動者（国内での移動に限る）の状況は641人の転出超過でした。その後、ゆめみ野地区での宅地開発の進展や、シティプロモーション・定住化促進への継続的な取り組みの結果、平成30年からは4年連続で転入超過となっています。

社会増減と自然増減

人口の増減には社会増減（転入・転出）と自然増減（出生・死亡）とがあります。人の移動を表す社会増減は移住・定住施策の成果指標として重要です。



取手市の社会増減の推移

出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
※日本人移動者（国内での移動に限る）を集計

◆若年層の定住が増えています

平成23年3月にまちびらきをしたゆめみ野地区は若年層を中心に人口が増え続け、40代以下の割合が8割を超えます（令和4年4月1日時点）。子育て世代がマイホームを購入して移住するケースが多く見られます。

▶ゆめみ野地区の年代別人口割合（4年4月1日時点）

年代	～10代	20代	30代	40代	50代～
割合	32%	10%	26%	16%	16%



ゆめみ野地区の人口の推移（各年1月1日時点）

シティプロモーションの取り組み

☎ 魅力とりで発信課 ☎ 内線 1192

市の魅力を効果的に発信し移住・定住を促進するため、市はさまざまなシティプロモーション施策を進めています。

シティプロモーション
サイトはコチラ！



▶ 通勤便利、自然が豊か、子育てに優しい、魅力的なまち

東京方面から見て茨城県の玄関口となる取手市は、常磐線で上野駅まで最短34分。通勤に便利です。また、ほどよい自然環境があり、子育てに関する施設も充実しているなど、さまざまな魅力があります。

▶ 市民協働による魅力発信

市の魅力を効果的に発信するには、皆さんが持つ地域への愛情や誇りを伝えることが重要です。市は、市民の皆さんと協働で「ほどよく絶妙とりで」というブランドメッセージや、ロゴマークの策定、関連グッズの作成・配布などを行ってきました。

▶ 取手市 PR 大使の任命

令和3年9月、市の歴史や文化・自然環境など、ブランドイメージや知名度向上を図るため、市内在住の歌手さくらまやさんを取手市 PR 大使に任命しました。さくらさんは、市や地域の行事などへ参加し、市の魅力を全国へ発信しています。

取手市PR大使 さくらまやさんにインタビュー

市PR大使に就任した歌手のさくらまやさん。自身も令和2年7月に市へ移住されました。移住先に取手を選んだ理由や、実際に住んで感じること、今後やってみたいことなどをお聞きました。



▶ 「仕事」と「愛犬」のことを考えて

個人事務所の設立に当たり、仕事や生活の拠点として長く住み続けられる場所を探しました。都内から近く、7匹の愛犬が伸び伸びと暮らせることを重視し、取手市はその両方を満たす場所でした。

▶ 住んでみて感じる、都会とは違うぜいたく

早朝に仕事に向かうことや深夜に帰宅することがありますが、不便はありません。鳥のさえずりで目覚める春や虫の鳴く声が響く秋の夜、子どもたちの遊ぶ声が聞こえる休日など、都会にはない風情があります。とても恵まれた環境だと感じます。

▶ 常総ふれあい道路の桜並木がお気に入り

大好きな常総ふれあい道路の桜並木。満開の時期は、桜のトンネルをくぐっているかのような幻想的な景色を楽しんでいます。また、気分をリフレッシュしたいときは、利根川の土手に行って深呼吸をしています。



▶ 取手市でやってみたいこと

もう少し道を覚えたら、自転車で壁画巡りをしたいです。歌手として歌に関するイベントも開催したいと考えています。これからも全国の皆さんに取手市の素晴らしさを伝えていきたいですね。

私が取手に住む理由

市が力を入れている移住・定住施策の中で、「とりで^すま^いる（スマイル）支援プラン」、「わくわく取手生活実現事業補助金」、「取手市テレワーク移住促進事業補助金」を利用した3組の皆さんに、市の魅力や取手市を選んだ理由などをインタビューしました。それぞれの補助制度の概要は6・7ページで紹介しています。

市内転居、これからも取手市で伸び伸びと暮らしたい

新築一戸建て住宅を購入し、とりで^すま^いる（スマイル）支援プランのうち「住宅取得補助金」を利用した辻さんご家族に、取手市の好きなおところなどをお聞きしました。

↑ 「とりで^すま^いる（スマイル）支援プラン」利用者の声



お気に入りの吹き抜けがあるリビング階段で

辻さんご家族

夫の単身赴任が終了した際に「そろそろ家を建てたい!」と、取手市で理想の注文住宅購入を決意。

▶都会と田舎の間、住みやすい環境で子育て

市内でアパート暮らしをしていましたが、子どもたちが家の中で伸び伸びと遊べるような、マイホーム購入を検討するようになりました。

取手市は、都心へのアクセスがよく「都会」な部分と、自然豊かな「田舎」の良さを併せ持つ、ほどよく絶妙なまちだと感じています。また、お互いの実家に行きやすい場所でもあります。そんな住みやすいこのまちで暮らし続けたいと思い、注文住宅を建てることにしました。

休日は家族で市内を散歩します。緑豊かなゆめみ野公園や、岡堰おかげきが好

きです。「ひつつきむし[※]」で遊ぶなど、自然を満喫しています。四季折々の楽しみ方があるのも良いですね。

▶新しい暮らしの中で感じる、心のゆとり

マイホーム購入は出費がかさみますが、補助制度のおかげで、デザイン上のこだわりを諦めることなく追求できて、とても満足しています。特に、吹き抜けや階段下の収納がお気に入りです。

アパート暮らしに比べ、収納場所が増えたことで、心にゆとりができました。子どもたちに片付けの習慣が身に付き、助かっています。

※衣服にくっつく植物の種子など



ゆめみ野公園のアジサイ



岡堰から見た朝日



ひつつきむし

ゆめみ野公園や岡堰では、自然を満喫しながら、のんびりと散歩を楽しむことができます!

言語聴覚士として新たな一歩、現在の就業先へ

東京都在住で都内に勤務していた坪井さんは、わくわく取手生活実現事業補助金の支援金対象となる就業先に転職し、市内に移住されました。仕事のやりがいや市での暮らしなどをお聞きました。

2 「わくわく取手生活実現事業補助金」利用者の声



坪井さん（静岡県出身）

市に移住する前は杉並区に約8年在住し、言語聴覚士として訪問看護ステーションなどに勤務。

▶茨城県内への転職を機に取手市へ移住。補助制度が後押しに

発達障害がある子どもを支援する、牛久市の通所施設への転職を機に、取手市へ移住しました。言語聴覚士は、言葉でのコミュニケーションや、摂食・のみ込みの問題に対応します。以前の職場で、重度心身障害がある子どもの在宅看護に携わり、少しずつできることが増えていく姿にやりがいを感じたため、転職しました。現在の職場でも、言語聴覚士のサービス利用者は少なかったのですが、自分からさまざまな提案をしていくことで徐々に理解が進み、利用者が増えてきています。

現在の就業先の人に教わって移住の補助制度を知り、経済的なハードルが下がったため、移住を決断する大きな後押しになりました。補助金は自動車の購入費に充て、主に通勤手段として活用しています。

▶取手市の印象は、落ち着くまち

実際に住んでみて、買い物などで不便を感じることはないですし、夜も静かでゆっくりと身体を休めることができます。地元の雰囲気に近いので、落ち着くのかもかもしれません。最近、野菜作りに挑戦したいと思い、市内の市民農園を借りました。まずはオクラを育てたいと思います！

夢のマイホーム！テレワークと移住で充実した生活

テレワークをする方を応援する取手市テレワーク移住促進事業補助金。住宅を取得して市外から移住された大沢さんに、夢の実現場所として取手市を選んだ理由などをお聞きました。

3 「取手市テレワーク移住促進事業補助金」利用者の声



大沢さん（宮城県出身）

就職後一人暮らしを始め、横浜市、松戸市、柏市在住を経て、取手市でマイホームを購入。

▶都内へのアクセスが楽な取手市で、夢のマイホームを購入

職場があるのは、港区の田町です。現在、1週間のうち2日間は通勤、3日間はテレワークをしています。昔からマイホームを購入したいと思っていたので、東京の会社に通勤でき、快適にテレワークもできる場所を探していました。他の自治体も候補にありましたが、金額面や立地を考慮して魅力的だったのが取手市でした。通勤にはJR常磐線快速を利用しています。都内へのアクセスが楽で良いですね。最寄り駅まで歩く時間を含めると、以前住んでいた柏市と比べて通勤にかかる時間は変わりません。

取手駅からは、始発電車に座って都内まで行くことができるため、ストレスがなく便利です。

▶趣味はサイクリング。家の中は「くつろげる空間」を意識

サイクリングは大学生から始めた趣味ですが、社会人になってからはあまり走っていませんでした。最近は、週末に走りに行く時間を作れるようになり楽しいです。

マイホーム購入に当たっては、くつろげる空間を意識しました。1階のソファでくつろいでいる時間が好きです。テレワークと移住で、プライベートが充実して良かったと思います。

移住・定住を応援！

市は、市内への移住・定住を希望する方のために、補助制度を設けています。制度の概要や実績などをまとめました。各制度には併用できるものもあります。申請方法など詳細は市ホームページをご覧ください。

と^すり^いで住ま入る（スマイル）支援プラン

☎ 都市計画課 ☎ 内線 3113

子育て世代などの「定住人口の増加」や「魅力ある住環境の整備」などを目的に、一定の住宅新築、増築、改修などに補助を行う制度です。以下のいずれも、住宅が市街化区域に所在していることが条件の一つです。（令和6年3月31日まで実施する予定）



▶ 新築住宅を取得する場合

優良な住宅を取得する方に、住宅ローンの額に応じた補助金を交付します。市街化区域（急傾斜地崩壊危険区域または土砂災害特別警戒区域の外）にあることや、長期優良住宅の認定を受けていることなどが条件です。

◆補助金額…最大 50 万円

※補助金額は、金融機関などと契約した住宅ローン（住宅借入金）の額の3%、上限30万円を基本とし、住宅が居住誘導区域内にある場合や、子育て世帯・市内就業者に対し補助金の加算があります。

▶ 中古住宅の購入や世帯員が増えて、リノベーションする場合

中古で購入した住宅に対して住宅機能を向上させる改修工事や増築工事・世帯員の増加に対応するために住宅リノベーション工事を行う方に、工事費用の一部を補助します。

◆補助金額…最大 40 万円

※住宅リノベーション工事（改修または増築工事）の費用の10%、上限30万円を基本とし、子育て世帯や市内就業者に対し補助金の加算があります。

▶ 持ち家（一戸建て）を子育て世帯に貸し、市内に転居する場合

シニア世帯（満50歳以上の方がいる世帯）の持ち家を子育て世帯（中学校などを卒業するまでの方がいる世帯）へ賃貸したとき、借主への家賃の補助、貸主へのリフォーム費用の補助、両者への契約仲介手数料の補助を行います。

◆補助金額

- ・家賃相当額分…上限1万円（月額）×36カ月
- ・入居者を募るためのリフォーム費用分…上限6万円
- ・仲介手数料分…上限6万円

利用実績

▶ 6年で541件

制度開始からの6年で、住宅取得463件、リノベーション78件、合計で541件の申請がありました。

▶ 6年で約1,500人

これまで約1,500人の定住につながっています。そのうち、約700人は市外から転入した方です。特に、若い世代の定住に大きな効果がありました。

※制度は併用できるため、6・7ページに記載の利用実績人数の合計は、制度を利用し移住・定住した方の合計ではありません。

取手市テレワーク移住促進事業補助金

☎ 政策推進課 ☎ 内線 1211

テレワークをするため住宅を取得して市外から移住する方に、住宅取得・賃借の費用を補助する制度です。都心に通うアクセスに優れている取手市は、コロナ禍による働き方の変化で広まったテレワークを行うのに適していることから、多くの方が制度を利用しています。



▶ 制度の要件

- 対象** テレワークをするため住宅を取得（賃借）して市外から移住する方
- 要件** 市が定める全ての要件に該当すること
- ・令和4年4月1日以降の期間を含む連続する3カ月間において、勤務日の5割以上テレワークを行う
 - ・5年1月31日までに転入すること
- ※住宅取得と賃借でさらに所定の要件もあります
- 金額** 住宅取得…50万円、賃借…5万円

利用実績

▶ これまで **39** 件

住宅取得しての移住が12件、賃貸物件を借りての移住が27件、合計で39件の申請がありました。

▶ これまで **67** 人

制度を利用して67の方が市に移住しました。東京都や千葉県から転入した方が多くなっています。

わくわく取手生活実現事業補助金

☎ 産業振興課産業活性化推進室 ☎ 内線 1444

県と連携して実施している移住支援金制度です。テレワークが浸透し、地方移住への関心が高まったため、令和3年3月から「テレワークで従来の仕事を続けながら地方に移住した人」が対象に追加されました。



▶ 制度の要件

- 対象** 東京23区在住か、東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県。一部地域を除く）在住で23区内に通勤する方で、市内に移住する方
- ※その他要件あり
- 要件** 以下のいずれかに該当すること
- ・県のマッチングサイトに掲載の移住支援金対象求人に応募
 - ・プロフェッショナル人材事業か先導的マッチング事業を利用して就業
 - ・転入から申請（転入後3カ月以上1年以内）までの間、勤務日の5割以上所属先企業などに行かずに市内でテレワークを行い、移住前の業務を継続
 - ・1年以内に県の起業支援金の交付を受けている
- 金額** 単身…60万円、2人以上の世帯…100万円（子育て世帯には加算あり）

利用実績

▶ 昨年度は **18** 件
33 人

昨年度は18件の申請実績があり、33の方が市内に移住しました。

取手で暮らすために、「知りたい」情報をまとめました

市ホームページには、住まい・子育て・仕事・暮らしの分野ごとに、利用可能な制度や実施している事業などをまとめたページがあります。取手市の概要や、動画による紹介も行っています。



SDGs の取り組みを進めています

☎ 政策推進課 ☎ 内線 1211

SDGs は、持続可能な社会を目指すための国際目標です。誰一人取り残さずによりよい世界を目指すため、市が取り組んでいることを紹介します。一人一人にできることから、世界のために行動していきましょう。

■ SDGs とは

SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS: 持続可能な開発目標) は、2015年9月の国連サミットで採択された世界共通の目標です。2030年までに、国連に加盟している193の国・地域が、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など17のゴール(目標)と169のターゲット(具体的な目標)の達成を目指しています。

■ 市は SDGs の達成に向けて取り組んでいます

市は現在、第六次総合計画に基づきまちづくりを進めています。令和2年度から5年度までの4年間の基本計画である「とりで未来創造プラン2020」の策定に当たり、重点施策とSDGsの関連付けを行いました。主な取り組みの例を紹介します。

▶ 気候変動へ適応していくため、さまざまな啓発活動を実施

☎ 環境対策課環境政策室 ☎ 内線 1411

市は、令和2年8月3日に県内市町村で初めて「取手市気候非常事態宣言」を表明しました。気候変動について一人一人が関心を持ち、自らの行動を変容していく社会を推進していくため、さまざまな啓発活動を実施しています。



緑のカーテンづくり講習会を開催

関連するゴール



気候変動に具体的な対策を

▶ 民間団体と連携し、芸術家を支援

☎ 文化芸術課 ☎ 内線 1292

市はさまざまな団体と協働で芸術によるまちづくりを進めています。コロナ禍で活動の機会が減少した芸術家の支援を行う事業を、NPO法人取手アートプロジェクトオフィスなどに委託し実施。芸術を取り入れた施策を一体となって進めていきます。



放課後子どもクラブでの交流

関連するゴール



パートナーシップで目標を達成しよう

■ 取手市 SDGs 推進本部を設置しました

全庁的にSDGsを推進していく体制をさらに強化するため、4月1日付けで取手市SDGs推進本部を設置しました。各重点事業ごとに、SDGsの達成に向けた進捗を管理するとともに、担当課への助言や提案を行っていきます。また、普及啓発のために、市ホームページや広報とりでを活用した周知にも取り組んでいます。

◎感染症対策を十分に講じて取材を行っています。
短時間に限りマスクを外して撮影しています。